官版

國法汎論

下帙

第六冊

帶五齋藏書

BBI

明治五年刊行

國法汎論

文部省

イ、カ、ブルンチリ著

從五位加藤弘之譯

大審院文庫
和書門
第三百九十八號
一部十一冊
第九十五函入

大審院印

司法省圖書之印

國法汎論卷之八上目錄

司法

第一款　司法權ノ性及ビ品類
第二款　司法ノ通則
第三款　私法事務ノ編制

B200
B2
1 66

下帙第六冊

此書首巻及ビ前數巻ハ、一千八百六十四年ニ刊行セル第三版ヲ以テ譯セシト雖モ、頃日六十八年刊行本第四版ヲ得タルニ由リ、本巻以下之ヲ以テ續譯ス、既譯數巻ノ如キハ、他日餘暇ヲ以テ、補訂スヘシ云フ、

明治六年五月

譯者誌

國法汎論卷之八上

瑞士　イカ、ブルンチュリ　著
加藤弘之　譯

司法ゲリヒト、

第一款　司法權ノ性、及、品類、ギー、ナツール、ウンド、ギー、アルテ、ス、ゲリヒト、

司法ノ權ハ、總テ法制ヲ傷害スル者アルニ至リテ、始テ施行スル者ナリ、凡法制ヲ傷害スル者アレハ、則司法權ヲ施行シテ、其傷害ヲ除去シ、以テ法ノ尊嚴ナル所ヲ顯ハスナリ、是故ニ司法ノ權

ハ、以テ國家ノ正義公直ノ旨ヲ保全スル所ノ者ナリ、

司法ノ職掌ハ、分テ二類トス、

第一　法ヲ認知スルヿ、エルケントニス、デス、レヒツ、（中古ノ語ヲ以テスレハ、即チ法ヲ覓着スルヿ、ヒレンデン、デス、レヒツ、）即チ判定、（ウールタイル、）判定ト云ヒ、二ヲ法ノ判定ト云フ、事ノ判定トハ、事ノ虚實、或ハ顛末如何ヲ判定シ、且之ニ次テ、其事ノ曲直、或ハ其罪ノ有無ヲ判定スルヲ云ヒ、又法ノ判定トハ、某事或ハ某罪ニハ、某法當ル可シト判定スルヲ云フ、

第二　法ヲ施用スルヿ、ハンドハーベン、デス、レヒツ、（法ヲ實地ニ施用シテ、事ヲ處分スルヲ云、）是レ即チ真誠ノ司法ナリ、（汎ク司法ト云フトキハ、第一第二ノ二事ヲ合称スト雖モ、真誠ノ司法ト云フトキハ、唯此第二事ヲ云フナリ、）

元来判定ノヿハ、必ス國家ノ權ヲ以テ、為スヘキ務ト云フ可ラス、人々或ハ事ノ法ニ合スルト否トヲ辨識スルノ良知ヲ以テ、此事ヲ為シ得ルアリ、或ハ法律ニ通曉セル學識ヲ以テ、此事ヲ為シ得ルアリ、是故ニ此事ハ、他諸般ノ學術ヲ以テ、為シ得ル事業ト、殆ト相殊ナル所ナシ、○然ルニ若シ真誠ノ司法ヲモ、此理ニ據テ論シ、而テ私人亦以テ、司法ノ權ヲ有シ得ヘシト為セハ、是大ナル謬見ト云フ可シ、凡判定ハ、真誠ノ司法ニ先ツテ、施ス

ヘキ預事タルニ過キスト雖モ、真誠ノ司法ハ、必法院ノ司ルヘキ務ニシテ、全ク國家ノ權ニ在ル者ナリ、是故ニ判定ノ了ハ、或ハ私人ニ委托スルヿアリト雖モ、司法ノ權ニ至テハ、國家常ニ之ヲ掌握セサル可カラス、而テ判定ノ了ヲ私人ニ委托スル時ト雖モ、決シテ私人ニ其全權ヲ與フルニアラス、必ス國家ノ權ヲ以テ、之ヲ控制スルナリ、私權利若シ屈害毀傷ヲ受ルヿアレハ、之ヲ除去シ、以テ私權利ノ安全ヲ追回復舊スルハ、全ク私法事務（チヒールレツプレーゲ）訟事務ト譯ス、即聽訟事務ナリ、（註）又訴ナリ、此時

ニ於テ、國家ハ唯此法ニ依テ、私人ニ屬セル權利ヲ保護シ、以テ損害ヲ受ケサラシムルナリ、而シテ國家此目的ヲ達センニハ、一ハ甲人ノ乙人ニ對シテ為セル背法ノ私事ヲ除去シ、一ハ甲人ヲシテ、其乙人ニ被ラセタル損失ヲ償ハシムレハ、則チ足レリ、即チ之ヲ約言スレハ、總テ屈害ヲ受ケタル私權利ヲ追回復舊スルヲ以テ、則チ足レリトスルナリ、

是故ニ此目的ヲ達センニハ、國家通例唯其權ヲ以テ、私人ニ真實ノ法ヲ告示スレハ、則チ足ルナリ、

〔按〕法院ハ唯法ニ據テ判定シテ、原告人ハ宜シク云々スベシ、被告人ハ宜シク云々スヘシト命スレバ、則チ足ルナリ、但若シ両造（パルタイ）、（被告多数ノ場合）被告ヲ云、原ノ一人、法院ノ判定ニ服セスシテ、猶自論ヲ主張スル片ニ於テハ、已ムヲ得ス國家ノ權ヲ以テ、之ニ強逼ス、而シテ斯カク強逼スルハ、即チ其正義公直ノ旨ヲ伸フル所以ナリ、故ニ此事ハ、法院當然奉行ス可シ、縱令警保官ノ輔助ヲ假ルヿ、必要ナル片ト雖モ、專ラ主トシテ之ニ從事スル者ハ、乃チ法院ナリ、

元来私法ハ、全ク私人互相ノ交際ヲ制スル者ナルカ故ニ、素ト國家ノ當然關スヘキ者ニアラス、

是故ニ私人互ニ其權利ヲ屈害スルヿアル毎ニ、必ス國家ノ權ヲ以テ、其屈害ヲ除去スルハ、決シテ國家當然ノ務ト云フ可ラス、若シ此事ヲ以テ國家當然ノ務トナスヿハ、遂ニ大イニ私人ノ自主自由ヲ限制シテ、全ク其交際ヲ妨碍スルニ至ルハ必然ナリ、故ニ私人ノ事ハ、私人ニ任セテ、自ラ處分セシメ、國家ハ宜シク之ニ關セサル可シ、〇去レ𪜈茲ニ甲乙二人アリテ、甲ハ乙ノ權利ヲ屈害セント欲スル片、乙之ヲ防テ、其權利ヲ保全セント欲スト雖モ、甲若シ之ヲ肯セスシテ、猶屈害ヲ行フ片

ハ、乙亦甲ノ權利ヲ退縮スルニアラサレハ、決シテ其屈害ヲ免カルヽ能ハサルナリ、然ルニ若シ是等ノ事ヲモ、猶總テ私人互相ノ處分ニ任セテ、國家敢テ之ニ關セサルトキハ、遂ニ公衆ノ平和親睦、輒ク乖離スルノ恐アリ、是ヲ以テ、今時ハ是等ノ事ヲ、決シテ臣民互相ノ處分ニ任スルヿナク、必ス法院ヲシテ、公明ノ心術ニ依リ、良善ノ規律ニ遵テ、兩個私人ノ曲直ヲ判定セシメ、以テ兩個私人ノ私ニ爭鬪スルナカラシムルニ至レリ、是故ニ私法事務ハ、必ス一競主ノ訴訟ニ由テ、始メテ施行スル者ナリ、

然ルニ、刑法事務（ストラフレヒツプレーゲ、或ハ治罪事務ト訳ス、即斷獄事務ナリ）ハ、私法事務ト相異リ、故ニ當私人ノ權利ヲ屈害スルノミナラス、尚亦暴惡所行ヲ以テ、國家ノ法制ヲ破リ、其害ヲ生スル者アルニ方リテハ、必ス刑法事務ヲ施スヲ要ス、凡リ現存ノ法制ヲ紊亂毀傷スルノ所行モ、或ハ私法ニ關係ナキ能ハス、去レ此所行ヲ企ツルノ心意方法、併ニ暴惡ニシテ、遂ニ公衆ノ平和ヲ傷害スルニ至レルトキハ、心ヤ刑法ヲ施サヽル可ラス、是故ニ刑法ハ、必ス公衆ニ關

セル事ノ為ニ施行スル者ニシテ、則チ亦公衆法（即チ國法ヲ云フナリ）ノ一部分トモ称ス可シ、緒論ヲ参看スヘシ、○是故ニ此ノ如キ暴惡所行ヲ為ス者アルニ方リテハ、其損害ヲ除去シテ、只屈害ヲ受ケタル者ノ權利ヲ追回スルノミヲ以テ、足レリト為ス可ラス、但此ノ如キ暴惡所行ヲ為ス者アルニ方リテ、此者ニ償金ヲ命シテ、屈害ヲ受ケタル者ノ損害ヲ償ハシムル處分モ、亦必要トナルヿナキニハ非サレトモ、此事ハ唯私法ノ關係ヨリ生スルヿナルカ故ニ、全ク私法ノ區域ニ屬ス、去レ此ノ如キ徒ノ償金ノ科ハ、唯罪犯ニ附屬スル者ナルヲ以テ、罪犯ヲ罪スルニ方リ、刑法官ニ於テ、共ニ此償金ヲモ命ス、但又時宜ニ由テ、罪犯ノ處決ト、償金ノ處決トヲ區分シテ、償金ハ、尋常ノ訴訟法官ヨリ命スルヿアリ、

刑法ノ本意ハ、刑罰ヲ罪人ニ蒙ラシムルニ在リ、凡ソ國家ノ害ヲ釀成スル罪人アルニ方リテハ、國家其正義公直ノ旨ニ由リテ、嚴ニ其罪人ヲ罰シ、以テ其威權ヲ保全シ、且公衆ノ和平安寧ヲ追回セサル可ラス、○罪科ト刑罰トハ、必ス敵當スルヲ

要ス、若罪刑敵當セサルトキハ、決シテ法制ノ尊嚴ヲ示シ、其紊亂ヲ復スル能ハサルナリ、凡罪人ヲ懲戒シテ、正善ニ遷ラシメ、且兼テ預他人ノ同罪ヲ犯スヲ警戒スルハ、即刑罰ノ目的ナリト云フ可シ、去此事、乃真ノ眼目トハ云フ可ラス、真ノ眼目ハ、即本人ノ罪科ヲ罰スルニ在リ、是蓋正義公直ノ旨ニ出ル所以ナリ、㊀

㊀スタール獨乙人、一千八百零二年ニ生レ、六十一年ニ死ス、カ著セルスタートツレーレ（按書名、即國家ニ云、暴惡ノ所学ノ書ナリ、）行（國家ニ於テハ即罪犯ナリ、）ヲ爲セル者、必ス刑罰ヲ蒙ルハ、即正義公直ノ旨ニ出ル所ノ千古不朽ノ法ナリ、故ニ人ノ良知自由ノ力ヲ失フコトナケレハ、皆此理ヲ知ラサルナシ、去此罪犯人ニ刑罰ヲ加ヘテ、其苦ミヲ喫セシムルトキハ、則此罪犯ニ由テ、嘗テ妨害ヲ受ケタル國家ノ法制秩序、舊ニ復シテ、其安全ヲ得ルニ至ルハ、何ニ由テ然ルヤ、其理ヲ解スルニ至リテハ、決シテ易事ニアラス、○（按以下即上文ノ理ヲ解スルナリ、）凡罪人ヲ刑罰ニ處スルトキハ、罪人自其刑罰ノ道義ノ理ニ出ル所以ヲ識得ス可シ、是ヲ以テ罪人ヲ

刑スルトキハ、道義ノ理、益〻灼然タルニ至ルヲ可シ、是故ニ國家ノ刑罰ハ、決シテ報怨ノ旨ニ出ルニアラス、凡報怨ノ旨意ハ、罪人ヲシテ、苦痛ヲ喫セシムルニ在リト雖モ、國家ハ決シテ、罪人ヲ苦シメンカ為メニ、刑ヲ加フルニ非ス、唯其刑ヲ加ヘンカ為メニ、苦痛セシムルナリ、報怨ノ為メニ苦痛ヲ與フルハ、其緩劇軽重、只報怨スル者ノ隨意ニアリテ、絶テ一定ノ限界アルナシ、然ルニ刑罰ハ全ク之ニ反シ、必其罪犯ニ應シテ、大小軽重ノ差アリ、（按以上スタールノ論ナリ、）○法制ハ人ノ善ト惡トヲ問ハス、總テ只其存在ヲ保護ス、故ニ國家ハ決シテ暴惡ノ心ヲ罪セス、唯他人ノ權利ヲ傷害スル暴惡ノ所業ヲ罪スルナリ、（按以上著者ノ論ナリ、）

是ニ由テ之ヲ觀レハ、刑罰ナル者ハ、全ク國法ニ屬スル者ナリ、然ルニ古時羅馬及獨乙ニ於テハ、罪犯人ヲ罰スルスラ、尚私人ニ縱ルセレカ如ク、今時ハ全ク此私刑ヲ禁シ、刑罰ノ權ハ、擧テ國家ニ歸スルニ至レリ、蓋近今法理ノ開明進歩セシ所以ナリ、其他權利ノ傷害ヲ受ケタル者ノ告訴ニ

由テ、始メテ罪犯人ヲ刑スルカ如キモ、亦甚シ刑法ノ理ニ戻ルト云フヘシ、罪犯人ヲ追捕刑罰スルハ、最モ國家ノ公事ナリ、故ニ必ス國家自ラ此務ヲ掌ラサル可カラス、○古時日耳曼ノ法ハ、私ニ仇怨ヲ報シ、及ヒ私ニ争鬪ヲ生スルヲ許セシカ氏、其後佛朗哥王國開明ヲ得ルニ至リテハ、公衆ノ和平ヲ傷ハサランカ為メニ、必ス私訴（プリハート）ヲ害ヲ受クル者ヨリ、其旨ヲ法院ニ告訴（カラーゲ）シ、罪犯人ヲ罰センヲ請フヲ云、（按）為スヲ通則トナセリ、英國ノ刑法ニハ、令時尚此意ノ存スル所アリ、然ルニ歐洲大地各國ノ如キハ、既ニ

數百年前ニ於テ、罪犯者ハ官必ス之ヲ追捕スルノ法立チ、（按）（スタートスル官、此事ヲ掌ルナリ、アーンワルト）（称）爾来漸ク通則トナルニ至レリ、蓋シ此法ノ起ルヤ、其始ハ敎會ノ力ニ由レル者ニシテ、更ニ前法（按）（私訴ヲ為ス法ヲ云、）ニ優レル良法ナリ、而テ其審理ノ法ハ、或ハ、インクイレチオンス、ヘルハーレン（按）（法士獨リ審理ヲ司ルノ法ナリ、）ヲ用ヒ、或ハアーンカラーゲヘルハーレン（按）（スタートアーンワルト、亦審理ノ事ニ加ハルノ法ナリ、）ヲ用フ、○但又時アリテ、自ラ法外ノ處分ヲモ許サヽル可ラス、例ヘハ傷婚（エーブルッフ、（按）夫アル婦、或ハ婦アル夫、他ニ犯姦ノ所業ヲ為スヲ云フ、）事アル

ニ方リテハ、夫婦ノ倫ヲ重スルヨリ、法外ノ處分ヲ許シ、（按例ヘハ夫其婦ノ姦通ヲ見ルキハ、私ヲ以テ姦夫姦婦ヲ殺傷スルトキ、殺人ノ罪ヲ以テ之ヲ刑セサルナリ、）或ハ他人ノ體面ヲ毀損スル等ノ所行ハ、國家ニ取リテハ、甚タ小事ト雖モ、毀損セラレシ當人ノ身上ニ在リテハ、頗ル大事ナルヲ以テ、復法外ノ處分ヲ許シ、（按例ヘハ人吾レヲ拳毆スルトキハ、則吾レ亦其人ヲ拳毆スルヒ決シテ罪タラス、）其他スターツアーンワルト、若シ政令上ノ利害ヲ視察シテ、故ニ其告訴ノ特權ヲ施行セサル時ノ如キ、（按スターツアーンワルトハ、罪犯人ヲ逮捕告訴スルノ特權ヲ有スル官ナリ、然ルニ若シ一罪人アルニ方リ、之ヲ逮捕告訴スルトキハ、恐クハ政令上ニ害アル

ヲ思ヒ、其逮捕告訴ヲ為サヽルヲ云フナリ、）亦法外ノ處分ヲ許ス、（按害ヲ受ケタル者、私ニ罪犯人ヲ罰スルヲ許スナリ、）

私法事務ト刑法事務トハ、自ラ相離レタルコトナルヲ以テ、之ヲ司ル所ノ官吏モ亦、相區分セル國多シ、實ニ此二個ノ事務ハ、全ク相殊ナルヲ以テ、之ヲ司ル所ノ官吏亦、別個ノ才識ヲ備ヘサル可ラス、例ヘハ訴訟法士（按即私法事務ノ官ナリ、）タル者ハ、私人互相ノ交際ニ於テ、甚タ錯雜紛亂セル事モ、機敏ノ才ヲ以テ、容易ニ辨解シ、至當ニ處決スルヲ得ルノ天稟ヲ具ヘサル可カラス、然ルニ刑法士タル

者ハ、罪犯人ノ心思ヲ洞觀シテ、殊ニ罪犯ノ意ヲ究察シ、及ヒ其罪狀ノ大小輕重ヲ、判別スルノ才識ヲ備ヘサル可ラス、○私法事務ニ於テハ、兩造ハ（タイ、被原告被告ノ兩對主ヲ云、）自己ノ事ヲ為スヲ以テ、憲法許ス所ノ區域内ニ於テ、自由ニ進退スル者ナリ、是故ニ其法士タル者ハ、必ス公平睿明ノ心ヲ以テ、兩造ノ事ヲ判定セサル可ラス、然ルニ刑法ノ事務ハ、既ニ罪犯人ノ為ニ傷害セラレタル正義公直ノ吉ヲ保護シテ、之ヲ追回スルヿ、甚タ緊要ナルカ故ニ、法士及ヒ判定者（ウーリルタイレル、）ハ、實ニ强盛ナル精神力ヲ以テ、審理判定セサル可ラス、

第二款　司法ノ通則（ゲマインサーメ、グルンドセッツ、ヒュールル、ギー、レヒツプレーゲ、）

〔第一〕國憲ニ於テ、法院ヲ政府ヨリ岐分シ以テ別個ノ者トナスハ、近今ノ要則ニシテ、各國大抵此法ヲ用フ、（巻之五第二款、及ヒ巻之六第十款ヲ參看スヘシ、）但シ法院ト政府トヲ以テ、全ク離分シ、絶ヘテ關係ナキ者トスルハ、甚タ不可ナリ、何者、國家元首ナル者ハ、諸權柄ノ由テ發スル所ノ中心ナルヲ以テ、司法權モ亦

形貌ニ於テハ、必此中心ヨリ發出スレバナリ、故ニ法院ハ、政府ヨリ岐分セル者ト為ス可シ、決シテ全ク離分セル者ト為ス可ラス、○法院ハ政府ヨリ岐分セシ者ナル故ニ、實事ニ於テハ、必獨立不羈ニシテ、其司法ノ務メニ於テハ、敢テ政府ノ指令ニ從フヲ要セス、㊀凡國家ノ正義公直ヲ保護スルハ、全ク法士ノ要職須務ニシテ、彼ノ利便ヲ謀リ、有用ヲ濟スカ如キハ、決シテ其職掌ニアラス、故ニ法士タル者ハ、已ムヲ得サルノ事情、及ヒ屢變易スル衆論等ニ著眼スルヿナク、現ニ確定

セル憲法ヲ、其職務ノ規矩トシテ、一向之ヲ遵奉スルニアラサレハ、決シテ能ク其職ヲ盡スト云フ可ラス、凡法士タル者ハ、自己ノ椅前ニ出ル者ヲ、貧富强弱等ニ由テ、愛憎好惡スルヿナク、偏ニ公明正大ノ心ヲ以テ、其曲直邪正ヲ裁判スルヲ要ス、然リ而シテ縱令ヒ政府ノ權ト雖モ、敢テ此裁判ニ容喙スル能ハサルナリ、

㊀葡萄牙ノ國憲第百十八章ニ云、「司法權柄ハ、獨立不羈ナリ」、又其第百二十二章ニ云、「法士ハ、罪犯ニ由テ、判定ヲ受ルニアラサレハ、決シテ

其職ヲ失フヿナカル可シ」ト、○普魯士ノ國憲第八十六章ニ云、「法士ハ國君ノ名號ヲ以テ、司法權柄ヲ掌握ス、但法士ハ、唯憲法ヲ遵奉スルノミ、決シテ他ノ指令ヲ仰ク者ニアラス」、又其八十七章ニ云、「法士ハ、國君ノ命ニ由テ、終生間授任セラル、故ニ憲法載定スル所ノ事故ニ由テ、裁判ヲ受クル時ニアラサレハ、決シテ其職ヲ放タレ、或ハ一時其務メヲ停メラル、ヿナカル可シ」ト、

上ノ理ヨリ生シタル規律、左ノ數條ニ舉ルカ如シ、

〔甲〕何人ニ論ナク、若シ自己ノ權利ヲ、傷害セラレタリト思惟スル片ニ於テハ、官ニ請願シテ、之ヲ追回シ得ルノ權アリ、國家民人ノ為メニ、其私權利ヲ保護スルハ、決シテ偏頗アル可ラス、縱令微賤ノ民、及ヒ外國人ト雖ヒ、國家必ス亦其權利ヲ保護ス可シ、太古ノ世ニ於テハ、外國人ハ絶ヘテ權利ヲ有セサル者トシテ、國家之レカ保護ヲ為サヽルノ法ヲ用ヒ、又中古獨乙ニ於テハ、傷和罪（フリーデンス）（ブルッツ）〔按〕平和ヲ傷リ、騷乱ヲ釀ス罪ヲ云フヲ犯ス者アル片ハ、必ス全ク

其權利ヲ褫フヲ以テ、刑罰ト為セシカ爾、方今ニ至テハ、決シテ此ノ如キヿヲ為サス、故ニ人ニシテ全ク權利ヲ有セサル者、絶ヘテ之アラス、○故ニ自己ノ事ヲ了スルニ堪ヘサル者ハ、必之ニ代ハリテ、其權利ヲ看護スル者ナカル可ラス、（按幼童、或ハ狂人癡愚等ハ、自己ノ事ヲ了スルニ堪ヘサル者ナルカ故ニ、父母親戚等之ニ代リテ、其權利ヲ看護ス、故ニ訴訟等ノヿモ亦代者之ヲ司ル、）且ツ審理ノ時ニ於テ、訴訟ノ法式煩シク、及ヒ其費用許多ヲ要スル片ハ、自ラ貧窮人ノ為メニ、訴訟ノ路ヲ壅閉スルノ患アルヲ以テ、官ヨリ貧窮人ニ代リテ、訴訟ノ事ヲ為スヘキ者ヲ命シ、務メテ訴訟ノ路ヲ洞開スルヲ佳トス、○但又訴訟ノ事ヲ好ム徒、動モスレハ詭譎ノ術ヲ施スノ恐アリ、少ナカラス、且ツ又一競主儘許多ノ損失ヲ被ルヿアルヲ以テ、國家預メ規律ヲ設ケテ、是等ノ害ヲ防制ス可シ、例ヘハ保償ノ制度（カウチオンスステルルング）ノ如キ是ナリ、（按原告人若シ曲ナル片レメンカ為メニ、訴訟ノ時ニ於テ、預メ原告人ヨリ金ヲ出サシムルノ制度ナリ、）ハ、被告人ノ損失ヲ償ハ

〔乙〕何人ニ論ナク、其當然ノ法院ニ於テ、審理ヲ受クルノ權アリ、㊀（按）或ハ臨時ニ設置スル法士ノ審理ヲ受ル等ノヿナキヿヲ云、

中古日耳曼ニテハ、諸般ノ事ニ於テ、同品位ノ者、

互相交關スルヲ貴フノ風アリシカ故ニ、判定ヲ受ルノ規律モ、更ニ綿密ニシテ、各人必ス其顯伴ノ判定ヲ受クルノ法ヲ立テタリ、故ニ古時ノ獨乙國法院ライヒスゲリヒト、ニ於テハ、ヒュルスト（按）侯爵ハ、必ス他ノヒュルストノ判定ヲ受ケ、レーヘン（按）封土ノ如キ者、事件ニ付テハ、ハーサル（按）封土ヲ受ル者、ハ、必ス他ノハーサルノ判定ヲ受ケ、并ニシラヘ（按）一種ノニ隨屬セサル徒ニ至テモ亦、其顯伴ノ判定ヲ受ケタリ、其他平民ハ、唯其居住スル都市ノ裁判局ニ於テ、判定ヲ受ケ、又侯伯ニ屬セル農民ホフヘーリゲル、バウエルハ、

スラ、尚通例ハ唯其君家ノ裁判局ニ於テ、判定ヲ受ケタリキ、○然ルニ今時ハ品位ニ由テ、此ノ如キ區別ヲ爲スヿヲ廢止セシカ故ニ、刑法及ヒ私法ニ於テ、萬民ノ權利、總テ皆同一トナリ、且皆同一ノ法院ニ於テ、判定スルヿトナレリ、凡ソ此ノ如キ變革アリシハ、全ク萬民皆同一ノ權利ヲ貴重スル者ニシテ、實ニ近今法理ノ大イニ開明セシ所以ナリ、是故ニ國民ノ品位ヲ論セス、皆同一ノ法院ニ於テ、判定スルノ規律ハ、實ニ常法トシテ、遵守セサル可ラス、但今世ハ、唯漫ニ此常法ヲ遵守ス

ルヲ貴テ、決シテ此常法外ノ規律ノ緊要ナル所以アルヲ知ラス、凡世間ノ諸事件、諸職業ノ中ニ於テハ、儘尋常一様ノ理ヲ以テ、論ス可ラサル者アリ、而シテ是等ノ事ヨリ生スルアルニ至リテ、其曲直邪正ヲ判定スルハ、亦唯是等ノ事ニ、能ク練磨セル者ニアラサレハ、決シテ能ハサルナリ、故ニ法院ノ編制ニ就テハ、決シテ此理ヲ忘失ス可ラス、而シテ近今各國共ニ、能ク此ノ如キ事ニ就テ、判定スル所ノ法院ナカル可ラサル所以ヲ悟リタレハ、必宜シク別種ノ法院ヲ設立シテ、此ノ如キ別種ノ事ヲ判定セシム可シ、但別種ノ法院ヲ設置スルカ為メニ、彼ノ萬民皆同一ノ法院ニ於テ、判定スルノ常法、及萬民皆同一ノ法ヲ以テ、判定スルノ規律ヲ傷フカ如キ弊害ヲ生ス可ラス、今上文ニ於テ、尋常一様ノ理ヲ以テ論ス可ラサル者アリト云ヒシハ、即殊ニ工商諸業ノ關係ヨリ生スル事件等ヲ指スナリ、但縱令是等ノ事件ト雖ヒ、決シテ悉皆尋常ノ理ヲ以テ、論ス可ラストハ為ス可ラス、

㊀荷蘭ノ國憲第百五十章ニ云、「何人ニ論ナク、

其當然審理ヲ受クヘキ法士ノ審理ヲ受クルヲ、妨ケラルヽナシ、（按一人審理ヲ受クルヿアルニ方リテ、當然審理スヘキ法士ヲ閣キ、他ノ法士ヲシテ、之ヲ審理セシムルヿナキヲ云、）

（丙）前章ニ論スルカ如キ理アルカ故ニ、乃チ非常法院（アウスナームスゲリヒト、）臨時ニ設置スル法院ヲ云、（按）ノ設置ヲ禁スルノ理、茲ニ於テカ生ス、抑非常法院トハ何ソヤ、即預メ司法ノ制度（ユスチツツヘルハツスング、）ニ載定セスシテ、時ニ臨ミ特ニ設置スル所ノ法院ヲ云フナリ、故ニ軍隊ノ為メニ設置スル所ノ尋常ノ軍陣法院、（ゲエーンリヘ、ミリテーールゲリヒト、）及ヒ（ミニステル）等ノ罪科ヲ裁判スルヲ掌ルヘキ國事法院等ノ如キ者ヲ、指目スルニハアラス、但此等ノ法院モ亦、唯一種ノ人品ノ為メニ設ケ、且臨時ニ其用ヲ為ス者ナルハ、固ヨリ論ナシト雖モ、必預メ法制ニ於テ確定スル者ナルヲ以テ、其理ハ平常設置スル所ノ法院ト相異ナル所アラサルナリ、○然ルニ常立法院ノ外ニ、之ニ代ハル所ノ一種ノ非常法院ヲ設ケ、以テ常立法院ノ當然掌ルヘキ務メヲ取テ、此非常法院ニ托スルカ如キハ、全ク禁止セサル可ラス、但唯實ニ已ムヲ得サル時ニ於テノミ、此規律ニ

戾レル處置ヲ許ス可シ、乃チ已ムヲ得サル時トハ、例ヘハ、第一ニハ、常立法院大イニ嫌忌ヲ受ケテ、實ニ司法ノ務ノヲ盡スヿ能ハサルニ至レル時、若クハ常立ノ數法院ニ於テ、審問セル數事ヲ、更ニ一法院ニ統合シテ、再ヒ審問スルヿ必要トナル時ヲ云ヒ、又第二ニハ、國家ニ非常ノ事起リテ、尋常ノ司法ヲ施ス能ハサルニ至リ、加之、嚴猛ノ威ヲ以テ、神速ニ裁判ヲ施スニアラサレハ、決シテ國家全體ノ法制ヲ保護スルニ足ラサル時ヲ云フナリ、○右第一ノ場合ニ於テハ、臨時ニ設置セル非常法院ノ職掌、權利、及ヒ裁判ノ規律共ニ、全ク常立法院ニ同シカル可ク、且非常ト云ヘル稱ハ、唯外貌上ノミニシテ、其實ハ全ク常立法院ニ異ナルヿナク、且非常法院ヲシテ、全ク司法規律ヲ遵守シテ、決シテ嚴猛ノ威力ヲ施サヽラシムルニ足ルヘキ法アルヲ要ス、然ルニ第二ノ場合ニ於テハ大イニ常規律ニ戾レル處置ヲ以テ緊要トナス、凡ソ戰爭、或ハ叛亂アル時ニ於テハ、スタンドレヒト（按）國家危難ノ時ニ於テ用フル、嚴猛ノ裁判法ヲ云、ヲ告示シテ、之ヲ用フルニアラサレハ、決シテ國家ノ危難ヲ

救フニ足ラス、故ニ此ノ如キ時ニ於テハ、故ニ臨時ニ設置セル軍陣法院、及其他ノ非常法院ニ、嚴猛ノ威力ヲ附托シテ、平日ハ決シテ罪スルニ抵ラサル所業ト雖モ、其時ニ方テ、妨害トナル可キ者ハ、悉ク之ヲ罪シ、或ハ平常ヨリ更ニ嚴刻ナル刑法ヲ施用セシム可シ、且平常ノ裁判ニ於テハ、大ニ法士ノ粗漏ヲ防キ、且對手（按）罪犯ヲ告訴セラレタル者ヲ云、ヲ保護シテ、之ヲシテ寃罪ヲ受ケサラシメンカ為ニ設ケタル、數種ノ規律アリト雖モ、此非常法院ニ於テハ、之ヲ廢止シ、而シテ務メテ審問判定

ノ迅速ナルヲ要スルモ、決シテ妨ケナシトス、○但此非常法ヲ許スヤ、唯實ニ國家ノ危難アル時、及其未タ鎮定セサル時ニ限ル可シ、決シテ其他ノ時ニ於テ、之ヲ用フルヲ許サス、且縱令此ノ如キ時ト雖モ、是ニ由テ、決シテ國家ノ正義公直ノ本旨ヲ害スルヲ許サス、是故ニ左ニ擧ル所ノ數件ハ、必之ヲ確守セサル可ラス、即チ第一ニハ、將ニ罪セントスル人ヲシテ、敢テ自ラ防護スルヲ得セシムル、（按）寃罪ヲ辨解セシムルヲ云、第二ニハ、之ヲ判定スルニ、判定ノ本意ヲ失ヒ、遂ニ國家ノ意思ヲ述

告スルカ如キニ至ラサルヿ、即司法ノ規律ヲ確守スルヿ、（按）判定ハ偏ニ憲法ニ依テ施スヘキ者ニシテ、決シテ國家ノ意思ニ由ル者ニアラス、故ニ此ノ如ク云フナリ、及第三ニハ、罪ノ疑ハシク、未タ其確證ヲ得サル者ハ、決シテ罪ス可ラサルヿ等ナリ、

（第二）古時ハ総テ公衆ニ係レル事ヲ公然ニ處分スルヿ、今時ニ比スルニ夐ニ卓越レタレハ、當時司法ノ務メヲ掌ルヿノ公然ナリシモ、敢テ異ニ足ラス、既ニ羅馬ノ法士ハ、寛平ナル市街ニ於テ、高座ヲ占メ、審理ノ事ヲ掌リ、又獨乙ノ法士ハ、菩提樹及ヒ椽樹ノ下ニ露坐シテ、獄訟ヲ掌リ、而シテ唯晝間ノミ之ニ從事シタリキ、其他又ビザンツ國（按）東羅馬帝國ヲ云フ、ノバシリケン（按）法院ノ名称モ亦嘗テ其官署ヲ鎖閉スルヿナカリキ、

然ルニ第十五世期、及第十六世期ノ頃ニ至リ、始テ法院ノ官署ヲ鎖閉シテ、隱密ニ審理ヲ施スノ風起リ、漸ク各國ニ蔓延セリ、蓋此風起ル所ノ因由、數種アリト雖モ、就中第一ニハ、教會ニ於テ、教旨ヲ信セサル徒ヲ懲戒スル嚴法ニ倣ヒ、査問ノ時ニ方リテ、罪人ノ心思ヲ究鞫スルニ、例ヘハ猛獸

ヲ其潛伏セル巖洞ニ索メテ、竊ニ之ヲ捕獲スルカ如キ詐術ヲ用ヒシニ由リ、第二ニハ、羅馬ノ法學ヲ取リシヨリ、殊ニ私法事務ニ於テハ、專ラ實況ニ著眼スルヿナク、唯書籍上ノ學習ニ勉勵スルヲ、主トスルノ風習ヲ生セシニ由リ、第三ニハ、國民ノ國事ニ關スルノ權、大ニ衰殘セシニ由リ、革四ニハ、時勢君主專權ノ政、漸ク行ハレシニ由テ、今ノ勢ニ至レリ、

然ルニ輓近ニ至リ、各國皆司法ノ公然ヲ復舊スルヿトナレリ、去ル比既ニ古時ノ公然法ヲ視テ、其

利弊ノアル所ヲ窮メシカ故ニ、只古時ノ如ク、漫ニ公然ヲ要ムルニアラス、必ス條理ニ由テ之ヲ索メタリ、○司法ノ務メハ、實ニ公然法ノ光線ヲ得ルニアラサレハ、決シテ生長スル能ハス、（換）比喩ノ言ヲ以テ且ツ又決シテ公衆ノ信ヲ取ル能ハス、㊀凡ソ人ノ心思、及ヒ冥々不死ノ精神ヲ究追スルカ如キハ、決シテ國家ノ掌ルヘキ所ニアラス、精神動テ外貌ニ發シ、惡所業トナリ、以テ國家ノ法制ヲ傷害スルニ至リテ、始メテ國家ノ當ニ關スヘキ者トナルナリ、是故ニ國家ハ、敢テ精神ノ秘蘊ヲ究追

スルノ權ヲ有セス、人ノ精神ニ就テ審判スル者ハ、獨天神ノミ、唯精神動イテ外貌ノ所業トナルニ至リ、始テ國家憲法ノ區域ニ屬スルナリ、

㊀荷蘭ノ國憲第百五十五章ニ云「法院ノ事務ハ、宜シク公然ナル可シ、但若シ公然ニナスキハ、之ニ由テ、公衆ノ秩序禮義ヲ害スルノ恐レアルキニ於テ、已ムヲ得ス、法院ノ館舍ヲ鎖閉スルカ如キハ、必憲法ニ從テ、之ヲ定決ス可シ」ト、但公然ト云フヿニ數意アリ、就中兩造及罪狀ヲ告訴セラレタル者ニ對シ、司法ノ公然ニシテ、敢テ隱秘スルヿナキハ、殊ニ緊須ナルヿナリ、私法事務ニ於テハ、兩造互ニ訴訟ノ情由、其答辭ノ旨趣、又其證左ノ事由等ヲ、十分ニ究追詳悉シ、而テ又自己ノ所業ニ於テ、過失ナキノ確證アレハ、則公然之ヲ法士ニ對シ、演述スルモ自由ナル可ク、并ニ其事ニ就テ、法院ノ裁判如何、及之ヲ裁判スル所以ノ原由如何ヲ、聽取スルヲ得ルノ權利ヲ有ス、又刑法事務ニ於テハ、罪狀ヲ告訴セラレタル者ト雖モ、尚此權利ヲ有スルヿ當然ナリ、凡是等ノ公然ヲ障碍スル處分ハ、即人ノ正義公直ヲ

掩翳スル所ノ蔭影ト云フ可シ、○両造或ハ罪狀ヲ告訴セラレタル者ハ勿論、其他國民一般ニ、司法ノ公平正直ナル所以ヲ信スルニ至ルハ、殊ニ此ノ公然法ノ在ルアルニ由ナナリ、（按本文論ス所、即公然ノ第一意ナリ、又唯法院ノ處分ニ由テ、自ラ其利害ヲ受ル徒、即チ一般ノ民人（按法院僅ニ一両輩ノ罪科、或ハ訴訟ト雖モ、之ニ就テ正善ノ處分ヲ為スハ、即チ能ク國家ノ正義公直ヲ保護スルカ故ニ、是ニ由テ、一般民人、自ラ利ヲ蒙リ、又若シ邪悪ノ處分ヲ為スハ、即チ正義公直ヲ傷害スルカ故ニ、是ニ由テ、一般民人、自ラ害ヲ蒙ルノ理ナリ、故ニ法院ノ處分ハ、悉ク一般民人ノ利害ニ関スルナリ、蓋シ和漢人未タ曾テ此理ヲ悟ラス、ニ對シ、司法ノ公然ナルハ、即チ第二意ノ公然ト称ス可クシテ、第一意ノ公然ニ比スレハ、則チ其緊須ナルヿモ亦更ニ少シ、去レモ此公然アルトキハ、自ラ第一意ノ公然廢墜スルニ至ルヲ防クニ足リ、且ツ公衆ノ眼目、自ラ司法ノ善惡ヲ注視スルニ足ルノ利アルカ故ニ、此公然ノ法亦、決シテ廢ス可ラス、○刑法事務ニ於テハ、此公然ノ法、最モ利アリト云フ可シ、何者刑法事務ノ當否ハ、殊ニ公衆ノ利害ニ関係アレハナリ、但私法事務ニ於テハ、此公然法ノ利タル、刑法事務ニ於ケルヨリモ更ニ少シ、蓋シ訴訟ノ事ハ、通例只両造ノ利害ニ關係ア

リテ、公衆ノ利害ニ關係アル丨少ケレハナリ、是故ニ私法事務ニ於テ、公然ノ法、若シ両造ノ利トナラス、却テ害トナル歟、若クハ此法ヲ用フルカ為メニ、却テ禮儀亂ル、ノ恐レアルトキハ、必ス法外ノ處分ヲ為サ、ル可ラス、〔按〕即チ公然ノ法ヲ用ヒス、人ヲシテ聽聞スルヲ得サラシムルナリ、加之、刑法事務ニ於テスラ、尚公衆ノ聽聞ヲ許スノ法ヲ以テ、決シテ動カス可ラサル嚴法トハ為ス可ラス、唯容易ニ此法ヲ動カシテ、敢テ公衆ノ聽聞ヲ禁セサルノミ、○公然ノ法ヲ用フルカ為メニ、時アリテハ、罪過ヲ告訴セラレタル者ノ黨與、或ハ妄リニ其罪過有無ノ證左ヲ論シテ、之ヲ抗辨スルニ至ルカ如キ弊害アリ、此事大イニ正義公直ノ旨ヲ傷害シ、判定官ヲ軽蔑シ、又ハ刑法ノ威權ヲ侮慢スルノ所行ト云フ可シ、去レハ此弊害ハ、決シテ司法ノ公然法アルヨリシテ生スルニアラス、法士ノ膽力脆弱ニシテ、且ツ自ラ其職掌權利ノ尊重ナル所以ヲ悟ラサルカ為メニ、遂ニ此輕侮ヲ来タスナリ、

然ルニ儘又司法ノ商議（ゲリヒツベラーソング）ニ至リテ、毫モ隠秘セサルノ法ヲ立テシ國アレハ、此法却テ

宜シキヲ得ル者ト云フニ足ラス、總テ司法ノ處分（按即チ査問判定ノコヲ云、）ナル者ハ、必ス公然明白ナルヲ要スト雖モ、未タ此處分ニ及ハサル以前、施ス處ノ商議ニ至リテハ、決レテ然ラス、凡ソ人悠閑ニ事ヲ商量スルトキハ、其思考モ自在ナルヲ以テ、自ラ亦明案ヲ得易ク、且自己ノ論ヲ、未タ公然ト、大衆ニ告諭セサル間ハ、自己ノ謬見ヲ棄テヽ、他人ノ卓見ニ從フヿモ、自ラ為シ易キノ理ナリ、

〔第三〕司法公然ノ理ト、密ニ吻合スル者ハ、即チ口述告訴（ミュンドリヒカイト）セラレタル者ト（按法院ト、両造若クハ罪状ヲ問、應對問答等、総テ口述ヲ以テスルヲ云、）ノ法ナリ、凡ソ口述ノ甚タ良法ナル所以ハ、此法ヲ用フルトキハ、則法院ト両造若クハ罪状ヲ告訴セラレタル者トノ間、親近ニシテ、互相ノ情實、如意貫徹スルニ在リ、且之ニ由テ、其情由ヲ穿鑿スルヿモ、自ラ易ク、判定ノ公正ナル所以モ、自ラ一般ノ依信ヲ興スニ足リ、及ヒ司法ノ務メ、蓋シ民人ノ性情ニ適スルニ至ル可シ、然ルニ口述ノ法ヲ用ヒスシテ、筆述（シリヒト）（按法院ト両造若クハ罪状ヲ告訴セラレタル者トノ間、應酬問答、都チ口述スルヿナク唯文書ヲ以テスルノ法ナリ、）ノ法ヲ用フルトキハ、法院ト両造若クハ罪状ヲ訴ヘラレタル

者ト、直ニ相接セサルカ故ニ、其情實、多クハ文墨ノ間ニ隱晦シテ、殆ト相通セサルニ至ル、是ニ於テ、両造若クハ罪狀ヲ告訴セラレタル者、暗ニ想フ、法士實ニ我カ告述セシ意ヲ能クヲ了解シタルヤ、恥ヲ知ラサル狡猾ノ徒、其間ニ在リ、夫カ為ニ法士或ハ欺罔セラル、コトナキヤ、或ハ實ニ其職掌ヲ盡スヤ否ト、是ニ於テ、大ニ疑團ヲ生スルコトアリ、法士屢、公衆ノ信ヲ失フコトアルハ、蓋是等ニ由テナリ、○其他法士動モスレハ、其文書ニ法科ノ言辭ヲ用ヒテ、巧ミニ羅文辨論シ、以テ其學識ヲ誇ルコトアルカ故ニ、両造若クハ罪狀ヲ告訴セラレタル者ハ、却テ其事理ヲ了解スル能ハサルノ弊害アリ、是ニ於テ、法ニ関スルコトヲ會得シテ、能クヲ之ヲ遵奉スル者ハ、獨博識ノ學士ノミナルニ至レリ、但審理ノ歸結、（按即チ判定ヲ云）及費用簿（按審理ノ為ニ要セル費用ノ簿冊ヲ云フ）ノ如キハ、記スルニ平常ノ言辭ヲ以テスルカ故ニ、両造及罪狀ヲ告訴セラレタル者モ、通例解シ得可シト雖モ、其他総テ審理ノ事及ヒ判定ノ由テ出ル所以ノ理ノ如キニ至リテハ、縱令詳細ノ文書ヲ與ヘテ、看讀セシムルモ、此輩

決シテ辨解スル能ハス、譬ヘハ唯審理ノ歸結、及費用ノ一ノミ、両造及罪狀ヲ告訴セラレタル者ノ宜シク知ルヘキ者ニシテ、其他總テ審理ノ一、及判定ノ由テ出ル所以ノ理ニ至リテハ、絶ヘテ両造等ニ關係ナク、空クアーンルト、（按両造等ニ代リテ辨論スル者ヲ云ヘリ）及法士ノ學習上ニ係レル一ノ如シ、勢ヒ此ノ如クナル片ニ至リテハ、總テ法制ニ屬セル一ハ、全ク學者ノ關スル所ニシテ、一般民人ノ為ニハ、無用ノ者タルカ如ク然リ、○熟今古ヲ歴覽スルニ、方今文明開化進ミシ以来、法學ノ術タル、古時ノ簡易ナル如キ能ハサルカ故ニ、民人一般之ニ通曉スルヲ得サルヨリ、自ラ上文ノ如キ形勢ニ至レリ、抑方今ノ勢ハ、先積年ノ學習練磨ヲ経ルニ非サレハ、決シテ法學ニ通曉スル能ハス、又實ニ法學ニ通曉セル法士ニ非サレハ、決シテ法學ヲ實地ニ用フル能ハス、故ニ未タ曾テ法學ニ從事セサル者ハ、絶テ法ヲ論スル能ハサルハ、固ヨリ當ニ然ル可シ、然リト雖モ、斯ク法學ヲ練磨セシ法士タル者ハ、能ク不學無智ノ徒ニ諭シテ、審理ノ次第、及判定ノ理等ヲ、詳ニ了解セシ

ムルノ方法ヲ用フルヿ、最モ緊要ナリ、而シテ此方法ヲ撰ハント欲セハ、口述ヲ以テ審理スルノ法ヲ用フルニ如クナシ、蓋シ口述ノ法ハ、法士ト両造等トノ際、相近ウシテ、其情實意ノ如ク貫徹スレハナリ、是故ニ口述ノ法ハ、實ニ審理ノ良法ト云フ可クシテ、諸種ノ法院ニ通シテ、適應スル所ノ要則ナリ、去レモ全ク之ニ偏倚スルハ、甚タ可ナラス、何者、時アリテハ、筆述ノ法、却テ口述ノ失ヲ補フノ利アレハナリ、凡筆記セルヿハ、口述ニ比スレハ、更ニ確實ナルカ故ニ、口述ヲ以テスルトキハ、或ハ粗漏ニ聽過シ、又ハ容易ニ忘失スルヿアルモ、若シ筆記ヲ以テスルトキハ、之ヲ讀ムヿ自ラ丁寧ナルカ故ニ、其事理ヲ確切ニ了悟シ得可ク、又辯論者モ、口述ヲ以テスレハ、其辞氣ノ間、或ハ粗言謬語等アルヲ免レスト雖モ、筆記ヲ以テスルトキハ、必ス熟慮シテ敷陳スルカ故ニ、其事理自ラ確切著實トナルノ益アリ、○方今人世諸般ノ事、頗ル精密ニ陟レル世ニ在リテハ、筆述書記ノヿハ、辯駁論説ニ於テ、實ニ緊要ナル者ナレハ、若シ司法ニ於テ、全ク之ヲ廢セントト欲セハ、其害殆ト少ナカラサル

可シ、是故ニ時アリ、筆述ノ法緊要ナル時ニ於テハ、常法外ノ處置ヲ以テ、之ヲ併用セサル可ラス、例ヘハ訴訟及治罪ノ事ニ於テ、若シ爭論ノ決シ難キニ遇ヒ、互ヒニ綿密ニ辯論スルヲ要スル時ノ如シ、

〔第四〕又法院判定ヲナスニ方リ、其判定セシ所以ノ理趣ヲモ、兼テ告示スルノ法ハ、近今各國ノ國憲上定ムル所ニシテ、實ニ近今法理頗ル開明セル世ニ適應スル者トニ云フ可シ、蓋此法ノ利タルヤ、法院ヲシテ、正義公直ノ旨ヲ務ムル所以ヲ、自己ニ對シ、并ニ兩造等ニ對シ、及ヒ一般國民ニ對シテ、明カニ保證セシムルニ足リ、併セテ專恣妄行ヲ為サヽラシムルニ足ルナリ、

第三款　私法事務ノ編制（オルガニサチオン、デル、チヒール）

（プレーケ、〔按〕又訴訟事務ト譯ス、即チ聽訟事務ヲ云、）

〔第一〕所謂和約ノ司法（フライサルリグ、グリヒツバールカイト、〔按〕私人互相ノ合約ヲ保證スル事務ヲ云、）ト、爭訟ノ司法（ストライチグ、グリヒツバールカイト、〔按〕私人互相ノ爭訟ニ就テ、法院ノ判定スル事務ヲ云、）トヲ以テ、方今既ニ全ク離分セル國アリ、或ハ仍全ク相合セル國アリ

テ、其制一様ナラス、凡司法ノ本務ハ、決シテ私人互相ノ法ヲ制シテ、其権利ヲ定ムル為メニアラス、唯毀損セラレタル権利ヲ追回復舊スルニ在リ、是故ニ私人相合約シテ互相ノ権利ヲ設定スルカ如キハ、全ク両個私人ノ権ニ在リテ、決シテ法院ノ當然關スヘキ所ニアラス、元来法院ノ事務ニ属セサルヲハ、決シテ法院ニ委托セサルヲ良善トス、○但例ヘハ土地田園ノ賣買典當等ニ係レル合約ニ於テ、公ノ監守、及ヒ保護ヲ要スル歟、若クハ兌換、或ハ約定書類ニ於テ、公ノ保證ヲ

要スルカ如キ、總テ唯外貌上ニ於テ、法院ノ相関スルヿ緊要タル時ハ、法士ヲシテ是等保證ノ事ヲ掌ラシムルヨリハ、寧ロ別ニ是等ノヿヲ専掌スヘキ者ヲ任スルヿ、更ニ良好利便ナリトス、而シテ此職務ヲ托シタル者ハ、決シテ職権ヲ與ヘテ、真ノ官吏ト為ス可ラス、唯私人ノ交際上ニ於テ、保證ノヿヲ掌ル者ト為スヲ要ス、彼ノタル、及ヒメクレルノ職ノ如キ、即チ是ナリ、但良善ナル法制ノ安全ナランヲ欲スルカ為メニ、是等ノ徒、實ニ能ク其職ヲ盡スヤ否ヲ監視スルハ、全ク法院

ノ職掌ニ属スト雖モ、此事ハ甚タ罕レニアルノミ、

○然ルニ私人互相ノ權利、實ニ其當ヲ得タリヤ否ヲ考察シ、而シテ若シ當ヲ得サルアレハ是ニ由テ遂ニ現立ノ法制ニ障害アルヲ以テ、預メ防備シ、及ヒ他日ノ争端ヲ未萌ニ消スル等ノ事、緊要ナルカ為メニ、法院ナル者、私人互相ノ和約ニ關スル時ニ於テハ、其事務ノ情狀、殆ト争訟ノ事務ニ相近シ、是ヲ以テ此ノ如キ事務ハ、必ス法院ノ兼掌スル所ト為スヘシ、蓋シ此ノ如キ事務ハ、全ク權利ヲ確定スルカ為メニ施ス者ナレハナリ、例ヘハ

ラーブツフトノ合約、〔按寡婦其夫ノ所有ノ數分ヲ得テ、終生間受有スルノ合約、及ヒデレコムニスノ定立〔按私人ノ所有物中ニ就テ、子孫相傳シテ、他ニ賣買授与ス可ルル部分ヲ定立スルヲ云、〕等ニ就テ、其可否ヲ考察シ、及ヒ許可スルヲ云フナリ、

〔第二〕私法事務ハ、争訟ヲ生シタル両造〔按原告被告ノ二人云、〕ノ請願ニ由テ、全ク両造ノ為ニ施ス者ナルヲ以テ、私判ノ法〔シーヅゲリヒト〕ス、両造互ヒニ相議シテ、共ニ一人ヲ撰ヒ、以テ其判定ヲ托スルヲ云、〕ヲ用ユルモ、固ヨリ當然ニシテ、決シテ妨ケナシトス、國家ナル者ハ、私人ノ際ニ生セル争論ノ判定ヲ願欲スルノ理ハ、絶ヘテア

ル可ラス、若シ両造ノ際ニ生シタル争論、國家ノ判定ヲ俟タスシテ、私ニ止息スルヿアレハ、却テ國家ノ為メ、利トスル所ナリ、是故ニ法院タル者、私判者ニシテ、ヒテル、ノ判定ヲ妨忌シテ、自ラ此事務ヲ執ラント欲スルノ理モ、亦決シテアル可ラス、加之、法院ハ、私判者ノ判定ヲ帮助スルヲ良好トス、但、私判ノ法ニ於テ、曲トナレル者、若シ其判定ニ服セサルヿアルトキハ、官吏ナラサル私判者ハ、強テ曲者ヲシテ、其判定ニ服セシムルノ權ナシ、是故ニ此ノ如キ時ニ於テハ、直ヲ得タル者ハ、必ス常法院ニ、其保護ヲ請願セサル可ラス、何者、真ニ司法ノ權ヲ有スル者ハ、獨リ常法院ノミナレハナリ、

○但、縱令、勢、此ノ如クナルトキト雖モ、私判ヲ以テ、全ク無益ト為ス可ラス、凡ソ両造ナル者、判定ノ權ヲ以テ、實ニ此私判者ニ委托セシトキニ、私判ノ法宜シキヲ得、其判定ノ體裁明白ニシテ、且其事理決シテ一般ノ信ヲ失フヿナケレハ、常法院ハ、必ス此判者ヲ保護シテ、其判定ヲ遂ケシム可シ、決シテ從前ノ處分ヲ全廢シテ、更ニ改判セシム可ラス、

〔第三〕私判ヲ許スノ制度ト相類スル者ハ、即解勸法（フリースゲリヒト）ヲ施スノ制度ナリ、解勸法トハ、通例未（タ）審理ヲ施サヽルニ方リテ、先（ヅ）両造ノ中間ニ入リテ、其解勸ヲ施スヲ云フナリ、其制度宜シキヲ得ル片ハ、民人ノ為（メ）ニ頗ル仁善ノ功アリ、彼（レ）瘦（ヤセ）セル解勸（マーゲルライセ）ヘハ、肥大（コエタル）ナル審理（ヘウテルプロツツニス）ニ優レリ」ト云ヘル諺ハ、真ニ確言ト云フ可シ、凡（ソ）何人ニ論ナク、其當然ノ權利ハ、縱令（ヨ）些少ノ部分タリトモ、失墜シテ可ナルノ理ナキハ、固ヨリ辨ヲ俟タス、去（ル）ヒ國家タル者、臣民互相ノ爭論ニ

就テ、力ノ及フ限リハ、解勸シテ互ヒニ和熟セシメンコフ務ムルノ權ヲ握ルモ、亦決シテ不可トス可ラス、但若（シ）之ニ由テ或ハ臣民ノ權利ヲ害スルカ如キコフアルハ、甚（タ）不可ナレハ、宜シク謹テ愛置セサル可ラス、○若（シ）解勸ニ由テ、幸ニ和熟整フコフアルトキハ、其功績或ハ廣博ナル學識ヲ以テ施セル審理ノ功績ト、全ク相合セサルコフナキニシモアラサレヒ、去（ル）ヒ決シテ臣民ノ權利ヲ害スル不條理ノ處分トナルノ恐レアラス、其他両造若シ真ノ審理ヲ受ル片ハ、各（ヽ）苦慮ヲ生スル少カラ

ス、動モスレバ互ヒニ不快ノ情ヲ含ムニ至リ、且ツ両造ノ費用ヲ要スル、亦許多ナルニ至ル等ノ弊害ナキ能ハスト雖モ、解勸法ニ於テハ、是等ノ患自ラ生セス、且ツ両造相和熟シテ、互相ノ權利ヲ回復スルニ至リ、及法院ノ費用モ、亦甚タ許多ヲ要セサル等ノ利アリ、

若解勸ノ處置ヲ以テ、常法院ニ委ヌルトキハ、其審理法ニ由テ、両造相争フ所以ノ原由及其争論ノ情實ヲ詳ニスルヲ得ルノ利少カラス、去レ此利ハ、決シテ此制度（按解勸ノ處置ヲ以テ、常法院ニ委ヌルノ制度ヲ云、）ニ固

有セル害ニ勝ツ能ハス、何者別ニ專ラ解勸ヲ掌ルヘキ法士ヲ置テ、其事ニ從ハシムルトキハ、前條ニ論シタルカ如キ、數弊害生スルヿナシト雖モ、若此制度ヲ用フルトキハ、數弊害過半生ス可ケレバナリ、○若法院審理ヲ以テ、解勸ノ處分ヲ施ストキハ、勢自ラ両造和熟シ難キニ至リ、加之、其審理ノ時間ニ於テ互相ノ忿懣愈積重シ、且費用愈増加スルニ隨テ、互ヒニ和熟スルノ心愈減シ、却テ愈相争ハントスルノ情ヲ増スニ至ル、但時アリテ審理ノ時日甚久シキトキハ、両造相抗スルノ氣

力倦怠疲老シテ、遂ニ其争論ヲ止ムルニ至ルヿアリ、是即互相ノ倦怠ニ由テ、其論ヲ止ムル者ニシテ、決シテ之ヲ以テ真ノ和熟ト為ス可ラス、○法士ノ本務ハ、決シテ解勸ノ處置ヲ施スニアラス、唯法ノ當否ニ由テ、之ヲ判定スルニ在リ、是故ニ法士若シ務メテ解勸ヲ施サント欲スルキハ、両造遂ニ法院ノ實ニ正義公直ノ旨ヲ守ルヤ否ヲ疑フニ至ルハ、必然ナリ、

是ヲ以テ別ニ解勸法士フリーデンスリヒテルナル者ヲ設置シテ、専ラ解勸ニ從事セシム、而シテ此法士ハ、

両造ノ中ニ立テ、法ニ由テ判定スルヿナク、唯専ラ両造ヲ解勸スルヲ掌ルノミ、凡此法士ハ、初メ佛國ニ於テ設置シ、其後殊ニ瑞士并ニ獨乙數國及葡萄牙ニ於テモ、亦皆此官ヲ設置セリ、去モ猶其制度ヲ改革スルヿ緊要ナリ、凡今時ノ制ノ如ク、法院ノ下等ニ列シテ、俸禄ヲ受クル官吏ニ、此職掌ヲ與フルキハ、未タ全ク其務メヲ盡スニ足ラス、是故ニ民間ニ在リテ、能ク人情世態ニ老練スル者、若クハ門閥卓越スルカ為メニ、大イニ一般ノ尊崇信仰ヲ受ケ、而テ自ラ真ノ官吏タルヲ欲セ

ス、唯好テ解勸等ノ一ヲ自任スル徒ニ、此職掌ヲ托スレハ、其功績頗ル大ナル可シ、○方今ノ貴族ト雖モ若解勸法士ノ職ヲ托シ、其意見ニ從テ、自由ニ其事ニ從ハシムレハ、大ニ民情ニ適應スル處分ヲ為スニ足ル可シ、

第四　私法法士（按又訴訟法士ト訳ス、）ノ編制ハ、各國各世皆相異ナリ、亞細亞各國ノ如キ、君主擅制ノ國（デスポチ）セル、スタート、ニ於テハ、皆專任法士ノ制（アイシヤルリヒテル、）（按）專ラ一人ノ法士ニ全權ヲ委スルヲ云、ヲ用フ、而テ此法士ハ、君主一代ハリテ、司法ノ全權ヲ掌握スル者ナリ、凡此制ハ、

一人ノ法士全權ヲ掌握スルカ故ニ、能ク神速ニ諸般ノ爭訟ヲ判決スルノ利アリ、去レ其權甚タ強大ニ至リ易キカ故ニ、動モスレバ、司法ノ本意ニ戾リ、私意ヲ挿ミ、遂ニ正義公直ノ旨ヲ害スルニ至ルノ恐レ少ナカラス、是ヲ以テ、自由ノ權ヲ貴重スル歐羅巴各國ニ於テハ、多クハ此制ヲ廢止セリ、但儘之ヲ用フル國アレモ、甚タ少ニ用フルヲ許レ、且大ニ其權ヲ限制スルノ規律ヲ立テタリ、

歐羅巴大地各國ニ於テハ、第十五世期以來、專ラ合議法士ノ制リヒテルコ行ハレ、數員ノ法士、相

共ニ法ヲ施用シ、併セテ判定ヲ掌ルコトナレリ、但其人員ノ多少ハ、各國古今ノ沿革、及ヒ方今ノ情實ニ由テ、相同シカラス、而テ其授任ニ至リテハ、君主國ニ於テハ、國家元首之ヲ選任シ、民主國ニ於テハ、同僚モ亦之ヲ選擧ス、（按）民主國ト雖モ、統領等ノ選任ニ出ル者多シ、○或ハ獨法學者ノミヲ擧テ、法士ト為ス國アリ、或ハ法學者ノ外ニ、猶未タ曾テ法學ヲ研究セサル貴族、都人、及ヒ農民ヲモ共ニ、法士ニ選任スル國アリ、而テ是等ノ諸法士モ亦、通例真ノ法官ニ列ス、

此合議法士ノ制ヲ以テ、專任法士ノ制ト比較スルトキハ、合議法士ノ制、遠ク專任法士ノ制ニ優ルヲ知ル可シ、何者、合議法士ノ制ヲ用ルトキハ、各員互ヒニ其處分ノ善惡可否ヲ監視シ、且互ヒニ自己ノ所見ヲ述告シテ、相補助スルカ故ニ、自ラ其處分ニ私意ヲ挿ハカ如キ患ヒナク、皆偏ニ法ヲ遵守スルニ至リ、是故ニ兩造モ亦全ク其處分ヲ信シテ、決シテ疑ハサルノ大利アレハナリ、其他各員法學ノ研究、并ニ日常相共ニスル所ノ奉務ニ由テ、互ヒニ相匡翼佐佑セント欲スルノ情、益深

尊トナルハ、敢テ疑フ可ラサル所ナリ、○近今歐羅巴各國ノ法士ハ、皆自ラ法官タル職掌ノ甚タ尊貴ナルヲ知ルカ故ニ、敬テ自重スルノ心アラサルハナシ、是ヲ以テ皆能ク正善ノ道ヲ守リテ、敢テ之ニ背カント欲スル者殆ト希ナリ、蓋此自重ノ心ハ、從来ノ遺物ナリ、宜シク心ヲ用ヒテ、永ク之ヲ保全ス可シ、

合議法士ヲ置クノ制ト、専任法士ヲ置クノ制ト、其優劣此ノ如シト雖モ、合議法士ノ制ニモ亦數弊害ノ加ハルヲ免レス、故ニ大ニ此制ヲ改革スルニ於テ、判定ト、真ノ司法（按法ノ源用ヰリ、）トハ、素ト相殊ナル職掌ナレハ、宜シク各殊ノ人品アリテ、各個ニ從事ス可キカ如クナルニ、方今ハ此理ニ由ラス、異殊ノ二職掌ヲ把テ、同一ノ人品ニ委托ス、元来真ノ司法ハ、實ニ國家制馭權ノ一ナルヲ以テ、必ス官吏ノ掌ル「ニ當然ナリト雖モ、判定ノ「ニ至テハ、決シテ國家ノ權柄ニ属スル者ニアラサレハ、私人ニ委托スルモ妨ナシ、然ルヲ尚ホ二個ノ職掌共ニ、必ス一個ノ官司ニ委ヌルカ故ニ、司法者（按茲

ニ司法ト云フハ、右二個ノ職ヲ合指スルナリ、一個タル者ハ、必皆官吏ノ列ニアラサルハナシ、○若唯法學者ノミヲ以テ、此二個ノ職掌ヲ兼攝セル合議法士ヲ設クルキハ、法士タル者動モスレハ、唯學問上ノ理ニ泥ミ、以テ法ヲ論スルカ故ニ、民人容易ニ之ヲ了解セル能ハス、且法學者流ハ、日々變遷スル所ノ情態世故ノ景況中ニ、法ノ淵源トナルヘキ實境アルヲ悟リ得サル者多キヲ以テ、其處分、全ク實際ノ景況ト合スル能ハサルノ害アリ、(按)法士ハ偏ニ法ヲ尊スヘキ者ニシテ、決シテ今日ノ景況ニ應シ遵守シテ、其職ヲ尽スヘキ者ニアラサルハ、前數卷ニ於テ、屢論スルカ如シ、去レ共今日ノ景況ヲ洞察スルオカアラサルトキハ、動モスレハ、大ニ其審理ヲ誤ルノ恐レ少トカラス、故ニ又若法士ヲシテ、民人一本文斯ノ如ク云フ欤、般ニ辨識シ易キ處分ヲ為サシメント欲シテ、法學者ト、及未曾テ法學ヲ知ラサル者トヲ混合シテ、合議法士ヲ設クルトキハ、徒ラニ有名無實ニ陷リ、絶ヘテ其功績ヲ見ス、加之、不學ノ法士ハ、自己ノ技能、遠ク法學ニ熟達セル法士ニ及ハサルヲ愧ツルカ故、徒ラニ之ヲ摸擬スルノミナラズ、務テ體裁上ニ於テ、其右ニ出ンコトヲ求ルニ至ルノ弊アリ、總テ此ノ如ク其任ニ適セサル者ヲ擧テ、法

士ト為スヿハ、啻ニ實法ニ益ナキノミナラス、恐クハ之ヲ害スル少カラス、○且此ノ如ク唯官吏ノミヲ合シテ、合議法士ヲ設クルヿハ、遂ニ法士ノ辭却レクサナオシ、デル、リヒテル（按）両造ノ一ト云ワルヿ人、若シ吾カ判定ヲ受クル法士ニ疑フ所アルヿハ、其判定ヲ辭却シテ、更ニ他法士ノ判定ヲ請フヿヲ辭却ノ法ト云、ヲ為スヿ、自オラ行レ難ク、且大ニ限制セラル、勢ニ陷ルナリ、

（按）判定者皆官吏ナルヿカ故ニ、民人縱令疑フ所アルモ、之ヲ辭却スル能ハサルニ至ルヲ云フ欤、且私法事務ノ要則トスルハ、素ト両造ノ信仰ヲ兼得タル者ニアラサレハ、決シテ判定セシム可ラサルノ規律ナルニ、（羅馬國ニテハ、最モ此規律ヲ貴重シタリ）、法士辭却ノ法行ハレ難キヿハ、此規律モ亦、自ラ全キヲ得サルニ至ル可シ、○其他合議法士ヲ設クルヿハ、官吏ノ人員甚タ許多ヲ要シ、司法ノ職掌適度ヲ失シ、法士ノ俸給、其品位ニ應シテ十分ヲ與フルヿ難ク、又國家ノ費用ハ、頗ル巨大トナル等ノ數患アリ

（第五）前條論スルカ如キ理アルヲ以テ、古時司法ニ就テ、良好ノ制度ヲ設立スルヿニ練熟セシ國ニ於テハ、右司法ノ職掌ヲ區分セン（按）判定ト、真ノ司法トヲ區分セシヲ云、外ニ、猶之ニ從事スヘキ人品ヲモ、區分シ

タリキ、而シテ仍今時ニ於テモ、稍此區分ヲ存スル國アリ、宜シク注意スヘキ所ナリ、

(甲)古時羅馬ニ於テハ、審理ヲ二分シ、而テ其一ハ法ヲ施用スル務メトシテ、之ヲ國民ノ選擇セルマギストラートト(按)長官ト云フカ如シ、ニ委チ、其二ハ判定スル務メトシテ、之ヲマギストラートヨリ、判定ノ任ヲ受ケタル判定者ニ托シタリ、但此判定者ハ、私人ニシテ、官吏ニ列スル者ニハアラサリキ、○マギストラートハ、唯一人ニシテ、其威權頗ル強大ナリキ、但又此威權ヲ限制シテ、其專恣ニ至ルヲ

防止セシ者數種アリ、即道義ノ心、從來ノ敎令、在職年限ノ短小、及審理ノ區分等是ナリ又判定者モ通例ハ一人ナリシカ、儘數員ヲ置キシコトアリ、加之、センツムヒラールグリヒト(按)百人餘ノ判定者ヲ備ヘ法院ニ於テハ、頗ル許多ノ判定者ヲ置テ、合議セシメタリ、○マギストラートハ、法問(レヒツフラーゲ)(按)某ノ裏分ニハ、何ノ法ヲ施用シテ可ナルヘキヤ、ト云フノ問題ヲ云、ヲ判決スルノ務ヲ負ヒ、又ユデキス(按)即チ判定者ハ事問(タートノラーゲ)(按)ヲ云フ故、事ノ虛實顚末等、如何ノ問題ヲ云、ヲ判決スルノ務ヲ負ヘリト云フ說ハ、甚タ當ラス、ユデキスハ、啻ニ審理ニ由テ、事

ノ虚實、及ヒ顛末等ヲ探索シテ、之ヲ證スルノ務メヲ負フノミニ止マラス、猶且ツ法問ヲモ判決シテ、其當ルヘキ法ヲ示定スルノ務メヲ負フタリキ、○但マギストラート、及ヒユデキス等モ、殆ト判定スル能ハサル難件アルニ方リテハ、法學者ノ論ヲ聽テ、處分スルヿアリキ、蓋シマギストラートユデキス共ニ、必スシモ法學ニ練熟セル者ニアラサルヲ以テナリ、去レハ法學者ノ論ヲ聽クトキハ、必ス之ニ由テ、處決セサル可ラスト云フノ制度ハ、絶ヘテアラサリキ、但又マギストラートハ、預メ、敎令ヲ以テ、法ヲ施用スル所以ノ原則ヲ、公告シ、而テ判定者現ニ判定ヲ為ス毎ニ、必之ニ適應セル規律、及ヒ判定者ノ權ヲ限定スルニ足ルヘキ規律ヲ諭示シ、以テ之ヲ遵守セシメタリ、

羅馬ニテハ數百年間、プレトール（按即マギストラートナリ、）ノ官止一人ニテ、萬般ノ審理ヲ總掌スルニ足リシハ、全ク斯ノ如ク、司法ノ事務ヲ、二分セシニ由ナリ、而テ方今之ニ類スル者ハ、唯英國司法ノ態勢ノミ、蓋此國ニ於テハ上等法士十二人ニシテ、全國ノ審理ヲ掌ルニ足レハナリ、

但羅馬ノ法ヲ取テ、之ヲ今時ニ用ヒント欲スルモ、決シテ其益アル可ラス、今時ノ如ク法學開明セル世ニ方テハ、法ヲ施用スル所ノマギストラートトナル者ハ、必ス自ラ法學ニ熟達セサル可ラス、何者、審理ノ事務ヲ開始スル時ニ於テ、自ラ其規律ヲ示スノミヲ以テ足レリトス可ラス、必ス審理終決ノ時ニ至ル迄、終始之ヲ總管スルヲ緊要トナス、方今ノ世マギストラート及判定者等、縱令法學者ニ依賴シテ、親切ナル補助ヲ假ラント欲スルモ、恐ラクハ、益ナカル可シ、

〔乙〕中古日耳曼ニ於テモ、亦法士ト判定者トヲ分チ、而テ法士ハ司法ノ長官ニシテ、審理ヲ總管スル者トナシ、判定者ハ、唯私人ニシテ、両造ノ伴侶タル者ニ過キサルヲ以テ、唯專ラ判定ヲ掌リ、及法士ノ顧問ニ備ハル者トナセリ、○此國ニ於テモ、法問ヲ判定スルノ務ト、事問ヲ判定スル務トヲ以テ、區分スルヿナク、必ス此両個ノ事ヲ、共ニ判定スルノ規律ナリキ、故ニ法問ノ判定モ亦、判定者ノ兼掌スル所ナリキ、○法士ノ威權ニ至テハ、羅馬ノマギストラートニ比スレハ、甚タ微弱ナリ

キ、法士ハ決シテ司法ノ章程規律ヲ示令スルノ權ナク、唯形貌ニ於テ、審理ヲ總管スルト、及ト判定者ヲ顧問ニ用フルノ權アルノミ、而テ法士或ハ判定者ニ顧問スルヿアルトキハ、判定者ハ、自己ノ識得ニ由テ、乃チ法ナリト思惟スル所ヲ、自由ニ演述シタリキ、且判定者ノ各員、互ニ障碍セラルルヲ防クカ為ニ皆、相離レ、自由ニ判定センヿヲ務メ、儘其職掌ノ區域ヲ踰ヘテ進出シ、而テ遂ニ法士スラ為シ能ハサルヿヲモ、縱ニ之ヲ為シタリキ、○但此國ニ於テモ亦羅馬ノ制ノ如ク、國民タル者、判定ノ務ヲ以テ、司法ニ關スルハ、國民當然ノ義務ナリキ、去ニ殊ニ貴族豪富等、此務ヲ負フヿ常ニシテ、羅馬ニテハ、貴族ノミ、此義務ヲ負ヒ、日耳曼ニテハ、両造ト門地同等ナル者、此務ヲ負フヿヲ貴ヒ、多クハ平民ヲ擧ケテ、之ニ充テタリ、

（按）蓋平民中ノ豪富ナル者歟、

（丙）英國ニ於テハ、訴訟ノ審理ニモ、亦擔士（ゲシヒヲルテ）（按）先ヲ擔約ヲ為シテ後、其職ヲ奉ス、故ニ擔士ト云、其職掌ハ下文ニ詳ナリ、ヲ用フルノ法アリテ、必ス官吏ナル法士ト、私人ナル擔士トヲ區分スルヿ、羅馬、日耳曼ニ同シ、而テ北亞米利加

ニ於テモ、復偏ク此擔士ヲ用フ、初英國誓士ヲ用フルノ法ヲ立ツルヤ、往古日耳曼ノ司法制度ニ倣ヒシカモ、英國亦自ラ、風ニ此法ヲ完全セリ、○但レ今時ハ止審理ヲ總管スルノ務ノミナラス、其他法ヲ明示シ、及之ヲ守護スル等、即チ真ニ法學ニ係レルヿハ、全ク法士ノ特掌スル所ナリ、蓋シ此制タルヤ、知識、學業、及地位ニ於テ、實ニ司法ノ權ヲ掌握スルニ足ルヘキ者ニ、此權ヲ委托スル者ナレハ、實ニ今時ノ開明、及正義公直ノ本旨ニ適セル者ナリ、

歐洲大地各國ノ法ニ於テハ、擔士ヲ以テ、法士ヨリモ更ニ緊要ノ者トナスヿ常ナレトモ、英國ニ於テハ然ラス、此國ノ法士ハ、全ク審理ノ權ヲ總持シテ、常ニ擔士ヲ管スルカ故ニ、其權力タルヤ、擔士ノ審理ニ関スル權力ヨリモ、更ニ強大ナリ、凡法士ノ員數ハ、甚僅々ニシテ、且其職高貴ナルヲ以テ、嘗テアーンワルト（按）両造ニ代ハリテ辯論スル者、ノ職ニ在リテ、特ニ訴訟ノ術ニ練熟シ、以テ拔衆ノ名ヲ得タル法學者ノミ、獨リ能ク法士ノ官ニ附ルヲ得可シ、○擔士法院（アッシセシ）（按）誓士法院ヲ用フル法院、ニハ、法士唯一

人アリテ、其務ヲ管ス、（但シ全ク擔士ノ補助ヲ假ラサルニハアラス）去レ𪜈數法院ノ法士復兼ヲ登訴法院（アッペルクナオンスゲリヒト、按私人下等ノ判定ニ服セサル𪜈、更ニ告訴スル所ノ法院ヲ云フ、）ノ法士タルカ故ニ、皆相結テ全ク離ル、コナク、互ニ其練磨スル所ヲ傳ヘ、及其判定セシ所ヲ示スヲ得、是ヲ以テ英ノ全國ニ於テ、司法ノ規律全ク一致シテ、決シテ相矛盾スルノ患アラサルナリ、○英國ノ憲法ニ於テ、各縣（カラーフシャフト、）ノ法士ハ、其縣ニ生レ、若クハ其縣ニ住スル者ヲ擧テ、之ニ任セス、必他縣ノ人ヲ撰任シ、以テ縣内ノ擔士法院ヲ管セシムル法則ナリ、斯クテ法士ナル者ハ、時々縣ノ法院ニ赴イテ、其務ニ從事シ、以テ國家ノ正義公直ノ旨ヲ守護スル者ナルヲ以テ、固ヨリ尊嚴ナル國威ヲ帶ヒ、高博ナル知識ヲ備ヘ、且公正ナル心思ヲ存ス、故ニ擔士及両造共ニ、能ク法士ヲ尊敬信仰シテ、其指令ヲ遵奉スルナリ、

法院ノ長官ナル法士、全ク法學ニ係レル大權力ヲ握ルヿ、既ニ前條ニ論スルカ如シ、去レ𪜈必両造ト門地品等相同シウシテ、且平常衆人ニ依賴セ

ラル、才識アル者ノ議論ヲ聽カサレハ、決シテ両造ニ係レルヿヲ判定セサルノ法ヲ立ツルカ為ニ、擔士ナル者ヲ設ケ、而シテ時々之ヲ民間ヨリ交換セシメ、以テ判定ノヿヲ掌ラシム、是故ニ縱令法士ノ權力甚タ強大ナリト云フ𪜈、之ニ由リ決シテ弊害ノ生スルヿナシ、但又擔士ナル者、或ハ偏頗ノ判定ヲ為スノ恐レ少カラサルカ如シト雖モ、此擔士ハ素時々民間ヨリ擧任シテ、交換セシハルノ制アルト、及ヒ両造ニ誓士ノ全員、若クハ其中一二人ヲ辞却スルヲ得セシムルノ法、數種アルカ故ニ、其判定ノ公平ナルハ、却テ定任セル合議法士ノ判定ニ於ケルヨリモ、更ニ確切ナリ、○或ハ又擔士ノ力、實ニ争論ノ情實ヲ詳悉シテ、之ヲ判定スルニ堪ヘサルノ恐レナキニシモアラス、去レ𪜈擔士ナル者ハ、能ク世事ニ練磨シ、且ツ法士其上ニ在リテ之ヲ管シテ、全ク擔士ニ任セサルカ故ニ、決シテ此ノ如キ恐レアル可ラス、而シテ若シ別個ノ事ニ付テ、能ク通曉暗練セル者ヲ要スルヿアルトキハ、別ニ特選擔士ヲ選擧シテ、之ニ其判定ヲ任ス、○英國ノ法學ハ、從来外貌ノ體

裁ニ拘泥スルノ弊アルヲ免レスト雖モ、其司法事務ニ至リテハ、能ク民情ニ適シテ、下民モ亦能ク其理ヲ解スルヲ得ルハ、蓋シ陪士アリテ、此事務ニ關スルニ由ルナリ、然ルニ他各國ニ於テ、近今大イニ外貌ノ體裁ヲ減除セシカモ、此事決シテ誓士ヲ用フルノ制ヲ立テシヨリ起リシニハアラス、○英國人ハ、陪士ヲ以テ、大イニ英國司法ノ榮譽ヲ示スニ足ルトナレ、且ツ私人ノ自由、及ヒ私法ヲ保守スルカ為メニ、實ニ堅牢ナル支柱ト為ス、而テ此陪士ハ、決シテ法士ノ位ニ列スル者ニアラス、又常ニ其任ニ在ル者ニアラス、必ス時ニ臨ミ舉ケラレテ、其任ヲ受クル者ナリ、故ニ平時ハ唯民間ノ一私人ニシテ、私事ヲ營作スルニ過キサルノミ、又其舉任ニ當ル時ト雖モ、唯事問ヲ判定スルノ職掌アルノミニシテ、法問ヲ判定スルノ職掌ナシ、蓋是等ノ制ハ、中古日耳曼ノ陪士制度ト、全ク相異ナル所ナリ、

獨乙ニテハ、今尚陪士ヲ用フル制度ノ不可ナル所以ヲ論スル者アリ、其論ニ據レハ、嘗テ羅馬及日耳曼ノ法學ヲ研究セシ者ニアラサレハ、決シ

テ獨乙ノ私法ヲ了解スル能ハサルカ故ニ、私法事務ニ於テ、民間ヨリ擧任セル擔士ヲ用フルハ、不可ナリト云ヘリ、但、縱令此論ヲ以テ、實ニ理ニ當レリトスルモ、英國ノ法ノ如ク、事問ヲ判定スルノ務ト、法問ヲ判定スルノ務トヲ以テ、判シテ兩件トナシ、法問ハ決シテ擔士ノ判定ニ任セス、必法學ニ熟達セル法士ノ判定ニ任スルノ法ヲ用フレハ、決シテ不可ナルヿナカル可シ、○且英國、及北亞米利加ニ於テ、法士タル者、其固有ノ法ノ由テ生シタル淵源ヲ究極シ、且甚錯雜紛亂セル現立法ヲ洞貫詳悉セントスルハ、獨乙ニテ尋常ノ羅馬法、獨乙法、及獨乙各國ノ法ヲ通知セント欲スルヨリモ、更ニ難事ナル可シ、（按）英法ハ專ラ慣用ニ出ル者多キカ故ニ、其事理、故ラニ商議載定セル者ノ如ク、分明ナラス、故ニ之ヲ請求スル、亦甚タ難シ、然ルニ獨乙ノ法ハ、專ラ商議載定セシ者多キカ故ニ、其事理自ラ分明ナリ、故ニ之ヲ請求スル、亦自ラ易キノ理アリ、然ルニ英亞ノ誓士判定ヲ爲スニ堪ヘサルカ爲ニ、法士司法ノ務ヲ盡ス能ハサリシヿハ、未曾テ聞カサル所ナリ、

〔丁〕獨乙ノ一二國ニ於テハ、別ニ商法院（ハンデルスゲリヒト）ヲ設ケ、商法ヲ司ル法院ナリ、但俗言、商業ヲ指テ商法ト云フ、甚誤レリ、商法ハ、商業ニ關スル法ナリ、

ヲ設立シ、法學者一人ヲ以テ、其法院ノ主長トシテ、審理ヲ總管セシメ、而テ之ニ商賈數員ヲ附屬シテ、共ニ判定ヲ掌ラシムルノ新法ヲ定制シタリ、斯法學ニ熟達シテ、國家ノ官吏トナレル法士一員ト、衆中ニ拔カレテ、民官トナレル商賈數員ヲ合シテ、共ニ事ヲ掌ラシムルノ法ハ實ニ法學ヲシテ、能ク實際ニ利アラシメ、且法ト民情ト、能ク相一致セシムルニ足ルト云フ可シ、後世恐ラクハ他ノ審理事務ニ於テモ、亦此ノ如キ制度ヲ用フルニ至ル可シ、獲真ノ法学士ト、其事ニ老練セル者トヲ合シテ、判定ヲ任スル制度ヲ云フ、

〔第六〕羅馬ノ古法、及獨乙ノ古法共ニ、訴訟審理ニ於テ、覆治ヲ為スカ為メニ、數等ノ法院ヲ置クノ法ハ、曾テアラサリキ、然ルニ近今ニ至リテハ、高等ノ登訴法院ニ於テ、兩造ノ爭論ヲ數回覆治スルノ法ヲ立テ、之ヲ以テ法院ノ擅判ヲ防クノ良法ト為ス、既ニ獨乙ニ於テハ三等ノ法院ヲ設ケ、覆治ヲ許スノ法ヲ撰定セリ、古時獨乙帝國ニ於テ、帝國法院ライヒスゲリヒト、ナル者アリ、又其各小國ニモ、上下二等ノ法院アリテ、合シテ三等ノ法院相關

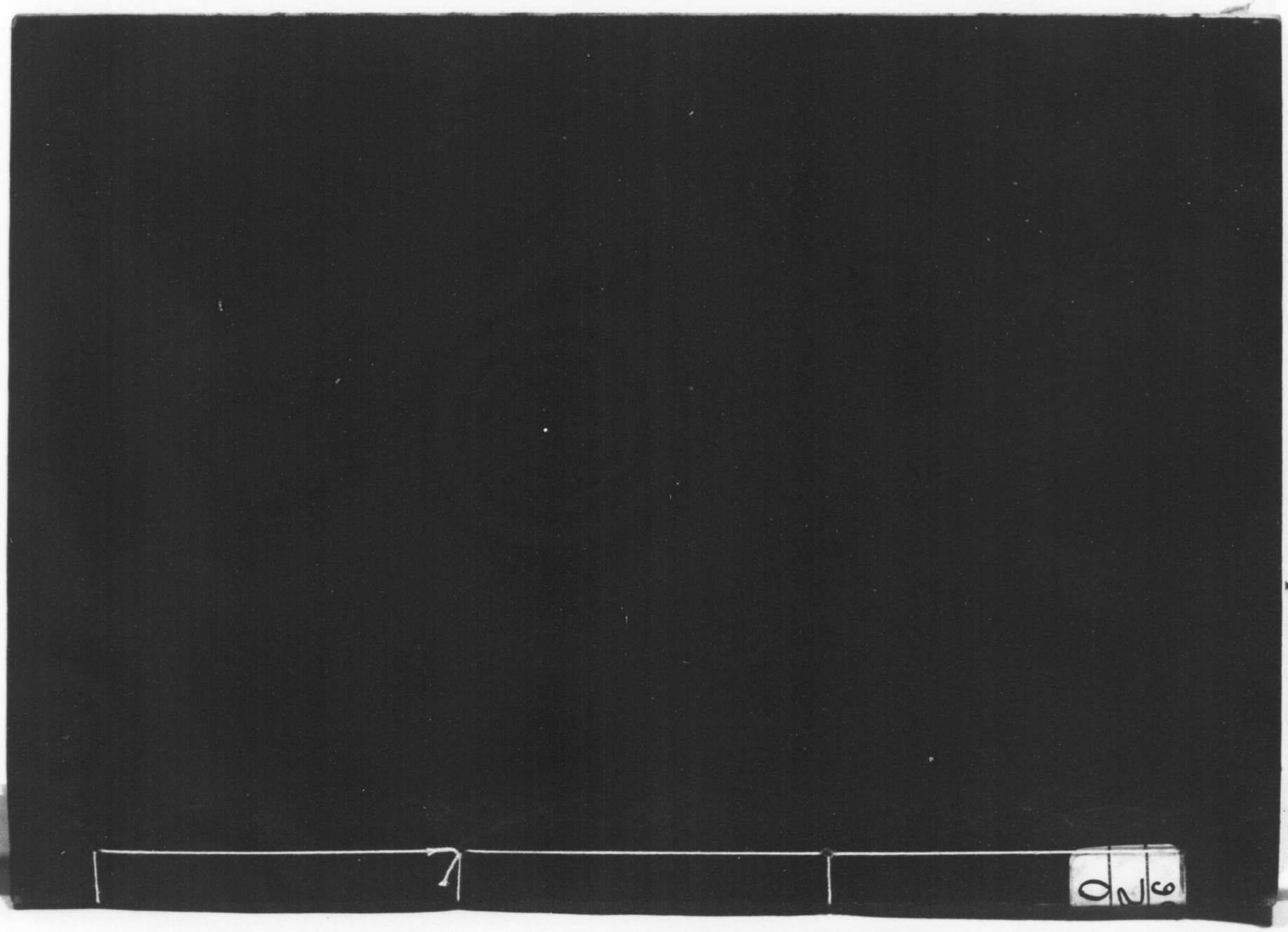
スルノ法アリシヨリ、今時復遂ニ三等ノ法院ヲ設置スルヿトナレリ、而シテ彼審理ニ於テ、筆述ノ法（按前ニ出ツ、）ヲ用フルノ制アル片ハ、縱令三等ノ法院ヲ置クモ、其弊害自ラ亦顯然タルニ至ラサル可シ、去レモ縱令筆述ノ法ヲ用ユト云フモ、決シテ其弊害ヲ全除スル能ハサル可シ、況シテ口述ノ法ヲ用フルニ於テハ、全ク三等法院ヲ置クノ制ヲ改メサル可ラサル、固ヨリ論ヲ俟タス、（按本文筆述ノ法云ヽ、余未タ其理ヲ解スル能ハス、猶再考スベシ、）然ルニ上下二等ノ法院ヲ置クノ制度ハ、三等法院ノ制度ニ優ルヿ遠クシテ、實ニ司法事務ノ正善ヲ保存スル、一良制ト稱ス可シ、凡初等法院（按下等法院ヲ云、初下等ニ於テ判定スルカ故ニ之ヲ初等ト云フナリ、）ニ於テ、未タ熟練セサル徒ノ判定ヤレヿヲ、高等ノ法院ニ於テ、練熟セル徒、更ニ覆治スルノ制アル片ハ、其判定ノ當ヲ得タル所以、益明亮タルカ故ニ、止両造ヲシテ、大ニ司法事務ノ正善ナルヲ信セシムルノ益アルノミナラス、下等法士モ亦判定ヲ為スニ臨ミ、大ニ敬思ヲ加ヘ、決シテ專横粗暴ノ處分ヲ為サヽルノ益アリ、然ルニ、若此制アラサル片ハ、下

等法士モ亦、司法ノ全權ヲ握ルカ故ニ、動モスレハ不正ノ事ヲ為スニ陥ルハ必然ナリ、○但國ノ版圖甚廣大ナルトキハ、一個ノ上等法院、焉ンソ能ク萬般ノ登訴ヲ總判スルニ堪ユヘケンヤ、故ニ此ノ如キ國ニ於テハ、必別ニカッサチオンスホフ、或ハオーベルホフ（按共ニ登訴ヲ司ル大法院、）ヲ設置シ、以テ法ノ一致、及司法規律ノ一致ヲ保護ス、（按全國ノ法、及司法規律ヲ悉皆一致セシメテ、相矛盾スルヲナカラシムルヲ云フ、カッサチオンスホフナル者ハ、元来佛國ニ於テ、創メテ設立セシ者ニシテ、他法院ニテ判定セシ所ノ法ニ當ラサル所以ヲ登訴スル者アルニ臨ミ特ニ其訟ヲ聽クヲ掌ル者ナリ、故ニ其職掌、大約獨乙ノオーベルホフノ職掌ト相同シ、但又相異ナル所アリ、即チカッサチオンスホフハ、他法院ノ審理、若其規律ニ背キ、或ハ判定偶其法ニ背クトキハ、併ニ皆ナ之ヲ廢シ、而シテ同法院ニ命シテ、更ニ覆治ヲ施サシムルヲ掌ルト雖モ、オーベルホフハ否ラス、他法院ノ判定ヲ全廢スルヲナク、唯務テ之ヲ改正スルヲ掌ル者ナリ、

訴訟審理ニ於テモ亦、搢士ヲ用フル法ヲ立テシ

國ニ於テハ、登訴ヲ為スノ規律、大ニ限制スル所アリ、就中唯法問ノ判定ニ就テ、登訴ヲ許スノミニシテ、事問ノ判定ニ就テハ、之ヲ許サス、故ニ此法アル國ニ於テハ、僅ニ一ノ上等法院アレハ、諸般ノ登訴ヲ總判スルニ足ルヲ可シ、此事即英國ヲ以テ證ト為ス可シ、

國法汎論巻之八上終

明治4年 第3063號 11月11日受入

大井潤一　校